

9 研究活動と研究環境

進捗状況報告

【9.1.1 経常的な研究条件の整備】																																																																																																																																																																																																	
1. 個人研究費、学会出張費（研究推進社会連携機構）																																																																																																																																																																																																	
<p>個人研究費や学会出張費の適正な執行（支出の合理性を自己責任において第三者に説明責任を果たす）の周知徹底を図ってきている。個人研究費は、教員の利便性から全額前払いを行っているが、内部監査や業務改革（学部等事務統合）の視点から都度払い実施が要請されており、①人員の再配置や執務スペースの確保、②都度払いへの移行時期、③都度払いへの移行に伴うシステム整備、④チェック体制の見直し、等が実現のための検討課題としてあげられるが、業務改革（学部等事務統合：西宮上ヶ原）が進んでいない現状であるため、検討を中断している。</p> <p>図書費、国際共同研究交通費補助や国際学会・会議報告者等助成金制度などを含めた、学内研究費の全学的な視点からの効率的運用（現行制度の見直し）の検討は進んでいない。</p> <p>2008年度個人研究費に関する報告書から、所属長に前年度報告書が5月末日までに提出されない場合は、所属長より前年度個人研究費全額の返還を求める、また、当年度申請書が5月末日までに提出された場合、当年度個人研究費を支給する。このことの周知徹底を図る。</p> <p>学内研究費の全学的な視点からの効率的運用の具体策等については、2009年度の目標の再設定と併せて検討を行う予定。</p>																																																																																																																																																																																																	
2. 個人研究室（学長室）																																																																																																																																																																																																	
<p>新棟（G号館）に個人研究室50室を設置し、40室を新設の人間福祉学部、残り10室を全学共用とした。G号館は1室22.3㎡で、既存の研究館に比し、ゆとりのある設計となっている。また、個人研究室エリアはカードキー管理され、静謐で安全な研究環境が保証された。しかし、G号館は当初予定より計画が縮小され、個人研究室も余分を各学部には配分するに至らず、10室は大学院課で管理し、2008年度は経・法連携コース設置に伴う教員増への対応に使用するに留まった。</p> <p>西宮上ヶ原キャンパスの整備充実計画のもとに計画されている、第1教授研究館の建て替えを具体化していく。また、当面建て替え計画のない研究館については、老朽化に応じ、研究室内の設備を修理や取替えなどで順次改善していく予定である。</p>																																																																																																																																																																																																	
3. 研究時間の確保（学長室）																																																																																																																																																																																																	
<p>正・副に分担されて役職者が任命されている場合は、委員出席者が正に片寄らないよう会議運営するなど、可能な限り行政面での役割分化が行われるよう努めた。</p> <p>会議開始・終了時間を厳守し、効率的な運営を行う。</p>																																																																																																																																																																																																	
4. 留学制度、特別研究期間制度、自由研究期間制度（研究推進社会連携機構）																																																																																																																																																																																																	
<p>各制度の選考基準において、各学部及び全学卒の割当人数が定められており、この基準に基づき該当者を決定している。しかし、当該年度の学部事情により、下表のように特定学部への人数が集中する場合もある。</p> <p>しかし、各学部の差異をできるだけなくすべく、各学部で平準化し、予算を公平に按分し、その範囲内で各学部の方針により運用できるように全体の研究費とともに検討することは、進んでいない。</p>																																																																																																																																																																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="4">2005年度</th> <th colspan="4">2006年度</th> <th colspan="4">2007年度</th> </tr> <tr> <th>春学期</th> <th>秋学期</th> <th>通年</th> <th>計</th> <th>春学期</th> <th>秋学期</th> <th>通年</th> <th>計</th> <th>春学期</th> <th>秋学期</th> <th>通年</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>神学部</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>文学部</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>4</td> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>社会学部</td> <td></td> <td>3</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>1</td> <td></td> <td>5</td> <td>6</td> <td>1</td> <td></td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>法学部</td> <td></td> <td></td> <td>3</td> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td>3</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>経済学部</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> <td>1</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>商学部</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>10</td> <td></td> <td>3</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>2</td> <td></td> <td>3</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>理工学部</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>総合政策学部</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>司法研究科</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>経営戦略研究科</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>学長直属</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>17</td> <td>29</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>20</td> <td>26</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>17</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>														2005年度				2006年度				2007年度				春学期	秋学期	通年	計	春学期	秋学期	通年	計	春学期	秋学期	通年	計	神学部			1	1			1	1			1	1	文学部	1	2	1	4		1	2	3	2	1	2	5	社会学部		3	3	6	1		5	6	1		3	4	法学部			3	3			3	3	1	1	1	3	経済学部			2	2		1	4	5	1	1	3	5	商学部	3	2	5	10		3	3	6	2		3	5	理工学部										1	1	2	総合政策学部			2	2			2	2		1	1	2	司法研究科											1	1	経営戦略研究科									1		1	2	学長直属	1			1									計	5	7	17	29	1	5	20	26	8	5	17	30
	2005年度				2006年度				2007年度																																																																																																																																																																																								
	春学期	秋学期	通年	計	春学期	秋学期	通年	計	春学期	秋学期	通年	計																																																																																																																																																																																					
神学部			1	1			1	1			1	1																																																																																																																																																																																					
文学部	1	2	1	4		1	2	3	2	1	2	5																																																																																																																																																																																					
社会学部		3	3	6	1		5	6	1		3	4																																																																																																																																																																																					
法学部			3	3			3	3	1	1	1	3																																																																																																																																																																																					
経済学部			2	2		1	4	5	1	1	3	5																																																																																																																																																																																					
商学部	3	2	5	10		3	3	6	2		3	5																																																																																																																																																																																					
理工学部										1	1	2																																																																																																																																																																																					
総合政策学部			2	2			2	2		1	1	2																																																																																																																																																																																					
司法研究科											1	1																																																																																																																																																																																					
経営戦略研究科									1		1	2																																																																																																																																																																																					
学長直属	1			1																																																																																																																																																																																													
計	5	7	17	29	1	5	20	26	8	5	17	30																																																																																																																																																																																					
<p>2007年度報告の「各学部の差異をできるだけなくすべく、各学部で平準化し、予算を公平に按分し、その範囲内で各学部の方針により運用できるように」との内容については、2009年度の目標の再設定と併せて見直しを行う予定。</p>																																																																																																																																																																																																	
5. 大学共同研究（研究推進社会連携機構）																																																																																																																																																																																																	
<p>大学共同研究全体の予算は2005年度と変更はない（16,500千円）が、このうち学長指定研究の件数及び予算額は、2005年度3,500千円で2件（継続1、新規1）、2006年度4,500千円で4件（継続2、新規2）、2007年度4,800千円（継続2、新規2）、2008年度2,300千円で2件（継続2）である。2005年度から2007年度は計画どおり総額および件数で増加していたが、2008年度は学長の交替もあり、新規の学長指定研究はなかった。</p>																																																																																																																																																																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">年度</th> <th colspan="2">2005年度</th> <th colspan="2">2006年度</th> <th colspan="2">2007年度</th> <th colspan="2">2008年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">金額 (千円)</td> <td>継続</td> <td>2,000</td> <td>3,500</td> <td>3,000</td> <td>4,500</td> <td>2,500</td> <td>4,800</td> <td>2,300</td> <td>2,300</td> </tr> <tr> <td>新規</td> <td>1,500</td> <td></td> <td>1,500</td> <td></td> <td>2,300</td> <td></td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">件数</td> <td>継続</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>新規</td> <td>1</td> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td>0</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>													年度		2005年度		2006年度		2007年度		2008年度		金額 (千円)	継続	2,000	3,500	3,000	4,500	2,500	4,800	2,300	2,300	新規	1,500		1,500		2,300		0		件数	継続	1	2	2	4	2	4	2	2	新規	1		2		2		0																																																																																																																																						
年度		2005年度		2006年度		2007年度		2008年度																																																																																																																																																																																									
金額 (千円)	継続	2,000	3,500	3,000	4,500	2,500	4,800	2,300	2,300																																																																																																																																																																																								
	新規	1,500		1,500		2,300		0																																																																																																																																																																																									
件数	継続	1	2	2	4	2	4	2	2																																																																																																																																																																																								
	新規	1		2		2		0																																																																																																																																																																																									

大学共同研究全体の予算枠の変更がないため、このうちの学長指定研究の予算増加は、公募の共同研究枠を圧縮することになる。現在、2009年度には学長指定研究が予定されていないが、一般の共同研究枠を配慮しつつ、学長指定研究の新規件数増加を図る。

【9.1.2 競争的な研究環境創出のための措置】（研究推進社会連携機構）

2005年度から2007年度の外部資金導入状況は次のとおりであり、件数・金額とも増加している。なお、2007年度理工学部・理工学部における外部資金導入件数だけを見れば、科学研究費補助金は42件（36.5%）、学外共同研究28件（82.4%）、受託研究21件（58.3%）、寄付研究18件（85.7%）である。

理工学部・理工学研究科以外の外部資金導入促進の具体策については検討が進んでいないが、2006年度に研究代表者として科学研究費補助金に申請したが不採択となった者のうち、申請した研究内容が優れていると判断される者（6名以内）に研究支援金（250千円）を支給して研究活動を奨励する制度（科学研究費補助金申請促進費）が新設され、2006年度は5名支給、うち2名が2007年度採択、2007年度は3名支給、うち2名が2008年度採択された。

〈単位：千円〉	2005年度		2006年度		2007年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
文部科学省科学研究費補助金 （研究員、大学院学生を含む）	101	219,500	103	226,347	115	239,920
厚生労働省厚生労働科学研究費補助金	1	1,500	4	15,239	1	10,030
学外共同研究	19	26,763	25	43,788	34	38,100
受託研究	22	36,898	32	224,433	36	361,562
寄付研究	18	15,460	20	20,781	21	17,050
合計	161	300,121	184	530,588	207	666,662

「科学研究費補助金申請促進費」の制度を継続するとともに、科学研究費補助金などの競争的研究資金による間接経費を、全学の研究環境の改善にどのように活用するか、2009年度の目標再設定と併せて具体策の検討を行う。

【9.1.3 研究上の成果の公表、発信、受信等】（研究推進社会連携機構）

研究業績データベースの更新については、毎年、所属長を通じて督促を行っており、「関西学院大学研究叢書・論文叢書」「外国語紀要」の発行並びに学部研究雑誌への発行補助は継続して実施している。しかし、国際的な研究成果創出支援制度や国際的な学術雑誌への研究論文掲載を推奨する制度や投稿料を補助するなど支援制度については、検討が進んでいない。

研究業績データベースの充実や新たな支援制度のあり方について、2009年度の目標再設定と併せて具体策の検討を行う。

【9.1.4 倫理面からの研究条件の整備】（研究推進社会連携機構）

2006年度に「関西学院大学『人を対象とした臨床・調査・実験研究』倫理規程」「関西学院大学『人を対象とした臨床・調査・実験研究』倫理規程における研究倫理審査部会に関する内規」「関西学院大学ヒトゲノム・遺伝子解析研究安全倫理管理規程」「関西学院大学ヒトゲノム・遺伝子解析研究安全倫理管理規程」を制定しており、これらの規程に基づいて研究環境・条件を整備している。

また、厚生科学審議会科学技術部会厚生労働科学研究における利益相反に関する検討委員会において検討されている「厚生労働科学研究における利益相反（Conflict of Interest：COI）の管理に関する指針（案）」への対応が求められており、2010年度厚生労働科学研究費補助金の交付申請提出前までにCOI委員会が設置されていない場合、2010年度以降の厚生労働科学研究費補助金の交付を受けることができない。

産官学連携の視点をも含めた本学の利益相反に関するマネジメントポリシーを、2008年度内に策定する。

【9.2.1 研究活動】（研究推進社会連携機構）

1. 21世紀COEプログラム～グローバルCOEプログラム（文部科学省、日本学術振興会）

21世紀COEプログラム「『人類の幸福に資する社会調査』の研究」は、2003年度に採択され、2007年度末で終了した。この21世紀COEプログラムの成果の持続的発展のため、2008年4月に先端社会研究所を開設した。また、先端社会研究所を中核として、本学を社会学・社会福祉学の拠点とするべく、2008年度グローバルCOEプログラム（社会科学分野）に「他者問題解明のための国際的教育研究拠点」を申請し、ヒアリングの結果、採択の対象とならなかった。

先端社会研究所を中核として、新たに国際的な教育研究拠点を形成していくとともに、社会調査データの蓄積・分析・利用に関する共同研究拠点として推進していく。

2. 私立大学学術研究高度化推進事業（文部科学省）

高度化推進事業には、2003年度1件、2004年度2件、2005年度1件、2006年度3件、2007年度4件が採択され、計11件の研究プロジェクトが推進されている。なお、2008年度から「私立大学学術研究高度化推進事業」制度が再編されて「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」として実施される。

2008年度は新たに2件を申請する予定であるが、2008年度末には5件の研究プロジェクトが終了するため、2009年度以降の推進施策の検討を行う。

3. 特定プロジェクト研究センター

本学教員によるプロジェクト型研究活動により、学際的・革新的共同研究を推進し、研究成果を社会に還元し社会貢献に資することを目的として、2004年度から特定プロジェクト研究センター制度を整備した。2004年度6センター、2005年度5センター、2006年度4センター、2007年度5センター、計20の特定プロジェクト研究センターが設置されている。

2008年度末で2つの特定プロジェクト研究センターが終了予定であり、設置期間終了時及び更新時には学外の第三者を含む評価委員会による評価を受けることとなっているため、その評価制度の整備を2008年度秋までに行う。

<p>【9.2.2 研究における国際連携】（研究推進社会連携機構）</p> <p>1. グローバルCOEプログラム（文部科学省、日本学術振興会）</p> <p>21世紀COEプログラム（2003年度～2007年度）において、7つの海外研究協力拠点を設置した。この21世紀COEプログラムの成果の持続的発展のため、2008年4月に先端社会研究所を設置した。そして、この先端社会研究所を中核として、2008年度グローバルCOEプログラム（社会科学分野）に「他者問題解明のための国際的教育研究拠点」を申請し、ヒアリングの結果、採択の対象とならなかった。</p> <p>先端社会研究所では、先の7つの海外研究協力拠点を中核としながら、新たに4つの海外研究協力拠点を形成し、研究交流を深めていく。</p>
<p>2. 人文学及び社会科学における共同研究拠点（文部科学省）</p> <p>2008年度「人文学及び社会科学における共同研究拠点の整備の推進事業」に、先端社会研究所を「社会調査データの蓄積・分析・利用に関する共同研究拠点」として申請し、面接審査の結果、採択の対象とはならなかった。</p> <p>共同研究拠点の目的のひとつである「研究活動を踏まえた海外の研究諸機関との研究交流・連携」を促進していく。</p>
<p>【9.2.3 教育研究組織単位間の研究上の連携】（学長室）</p> <p>研究活動の振興・活性化をはかる目的で研究推進社会連携機構を置いている。機構には、副学長、各学部・研究科長等大学の役職者、常任理事、総務部長、財務部長等法人の役職者で構成される評議員会が置かれ、各組織単位間の連携をはかりつつ、研究の振興を行っている。</p> <p>特定プロジェクト研究センター、災害復興制度研究所、2008年度新設の先端社会研究所など、期限付き研究所については、一定期間経過後の存続見直しを同機構で承認することとし、可能な限り同機構への研究教育機能の一元化をはかった。</p> <p>研究面における各組織単位間の情報を同機構を通じて共有することで、一層の研究振興をはかる。</p>

学内第三者評価

<p>個人研究費や学会出張費の合理的支出と説明責任については、報告書提出時期の厳格化等で進展が見られたが、目標とされた全額前払いの是正は進んでいない。事務組織の大幅な見直しを必要とする事務作業の増大が予想されることも進まない原因の一つと考えられるので、不自然な支出時期是正の徹底等、当面に実行可能な方策を示されることが望まれる。個人研究室の問題（特に広さ）解決は積年の課題であり、同時に特に大学院教育等の重要な設備でもあるので、G号館の建設で部分的に改善が見られたものの全体としての早急の改善が望まれる。競争的な研究環境創出の施策は次第に進んでいるものと認められる。留学制度等の見直しも、この観点から考えることができるかもしれない。学長指定研究は、成果の期待できる（つまり競争力のある）研究のシーズになるだけでなく、研究面での大学戦略の方向付けともなるものなので、何らかの工夫により件数が増加されることが望まれる。COEプログラムの成果を大学における研究のシーズとして継承・発展させるためにも先端社会研究所等への十分なサポートが必要と思われるが、同時に、グローバルCOEをはじめ国の施策によるプロジェクトへの申請において、学内からの取り組みの限界も感じられる。学内外の広いサポート体制の構築を今後の課題とすべきではないだろうか。総じて多くの施策への取り組みが、2009年度の目標再設定にかかっているとの認識が見られるが、それに向けて大学の戦略的な方向付けが明確に示されることが重要であろう。</p>																																																																																																																																																									
<p>なお、学外委員からは以下の意見があった。</p> <p>一律に個人研究費を支給することは対外的に説明ができないし、学内においても競争的環境を醸成することができない。特に文系においてはそれで十分資金が確保され、外部資金の応募の妨げになりかねない。個人研究費支給のためには、研究目標を立てさせる、外部資金への応募を条件とする等の仕組みの可能性を検討することがのぞましい。また全額前払いは内部統制上望ましくなく、教員に研究資金の管理業務が発生することもあり、都度払いの早期徹底が望まれる。</p>																																																																																																																																																									
<p>一 以下全学共通 一</p> <p>研究成果の発表状況について以下の表のとおりであることに留意されたい。</p>																																																																																																																																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>年度</th> <th>著書</th> <th>論文</th> <th>レファリ-付論文</th> <th>学会報告</th> <th>学術発表</th> <th>翻訳</th> <th>調査報告</th> <th>書評</th> <th>評論</th> <th>事典</th> <th>辞典</th> <th>講演</th> <th>招待講演</th> <th>特許取得</th> <th>特許出願</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>2001</td> <td>181</td> <td>476</td> <td>142</td> <td>187</td> <td>137</td> <td>42</td> <td>45</td> <td>33</td> <td>41</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>88</td> <td>41</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2002</td> <td>199</td> <td>419</td> <td>137</td> <td>214</td> <td>120</td> <td>24</td> <td>43</td> <td>53</td> <td>42</td> <td>6</td> <td>17</td> <td>118</td> <td>40</td> <td>0</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>大学全体</td> <td>2003</td> <td>193</td> <td>418</td> <td>129</td> <td>248</td> <td>151</td> <td>24</td> <td>36</td> <td>37</td> <td>42</td> <td>4</td> <td>15</td> <td>113</td> <td>51</td> <td>5</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2004</td> <td>161</td> <td>388</td> <td>105</td> <td>200</td> <td>181</td> <td>15</td> <td>22</td> <td>31</td> <td>44</td> <td>5</td> <td>11</td> <td>86</td> <td>38</td> <td>0</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2005</td> <td>164</td> <td>388</td> <td>147</td> <td>200</td> <td>249</td> <td>26</td> <td>15</td> <td>18</td> <td>36</td> <td>9</td> <td>20</td> <td>136</td> <td>48</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2006</td> <td>171</td> <td>293</td> <td>133</td> <td>209</td> <td>164</td> <td>9</td> <td>11</td> <td>21</td> <td>46</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>107</td> <td>83</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2007</td> <td>111</td> <td>181</td> <td>97</td> <td>136</td> <td>97</td> <td>12</td> <td>9</td> <td>19</td> <td>49</td> <td>6</td> <td>17</td> <td>76</td> <td>72</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>1,180</td> <td>2,563</td> <td>890</td> <td>1,394</td> <td>1,099</td> <td>152</td> <td>181</td> <td>212</td> <td>300</td> <td>38</td> <td>91</td> <td>724</td> <td>373</td> <td>6</td> <td>20</td> </tr> </tbody> </table> <p>(基本的な指標データNo9211、「関西学院大学研究業績データベース」に登録されている件数)</p>		年度	著書	論文	レファリ-付論文	学会報告	学術発表	翻訳	調査報告	書評	評論	事典	辞典	講演	招待講演	特許取得	特許出願		2001	181	476	142	187	137	42	45	33	41	3	7	88	41	1	3		2002	199	419	137	214	120	24	43	53	42	6	17	118	40	0	10	大学全体	2003	193	418	129	248	151	24	36	37	42	4	15	113	51	5	2		2004	161	388	105	200	181	15	22	31	44	5	11	86	38	0	4		2005	164	388	147	200	249	26	15	18	36	9	20	136	48	0	0		2006	171	293	133	209	164	9	11	21	46	5	4	107	83	0	0		2007	111	181	97	136	97	12	9	19	49	6	17	76	72	0	1	計		1,180	2,563	890	1,394	1,099	152	181	212	300	38	91	724	373	6	20
	年度	著書	論文	レファリ-付論文	学会報告	学術発表	翻訳	調査報告	書評	評論	事典	辞典	講演	招待講演	特許取得	特許出願																																																																																																																																									
	2001	181	476	142	187	137	42	45	33	41	3	7	88	41	1	3																																																																																																																																									
	2002	199	419	137	214	120	24	43	53	42	6	17	118	40	0	10																																																																																																																																									
大学全体	2003	193	418	129	248	151	24	36	37	42	4	15	113	51	5	2																																																																																																																																									
	2004	161	388	105	200	181	15	22	31	44	5	11	86	38	0	4																																																																																																																																									
	2005	164	388	147	200	249	26	15	18	36	9	20	136	48	0	0																																																																																																																																									
	2006	171	293	133	209	164	9	11	21	46	5	4	107	83	0	0																																																																																																																																									
	2007	111	181	97	136	97	12	9	19	49	6	17	76	72	0	1																																																																																																																																									
計		1,180	2,563	890	1,394	1,099	152	181	212	300	38	91	724	373	6	20																																																																																																																																									